

1. 科目名（単位数）	教育健康学特論（2 単位）	池袋	3. 科目番号	EDMP5512 EDMP5372
2. 授業担当教員	【池袋】石垣久美子・山本静雄・神宮直人			
4. 授業形態	講義、演習、実習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	人間のかけがえのない「いのち」を多方面から支える科学としての健康学が「教育健康学」であり、これこそが学校教育を支える基盤である。すなわち、あらゆる教育現象、学校生活現象における個々の次元での出来事に対して「教育健康学」の専門性を生かした視点で種々の適切な対応策を展開する際に基盤となる知識・思想・技術などの養成は、教員養成系大学及び大学院として特に重点を置かなければならない教育の原点である。 この講義では、人間の成長過程における体温調節能力をコアとした「適応」の概念に関する知見を教育健康学の視点から考えるとともに、人間の発育、生活生存と各種環境問題（空気・水・光・音・植生・生態系）との相互作用を自然科学として把握するとともに、教育健康学の観点から「人間」と「環境」に着目した思想を再解釈し、自己実現能力と自己ケア能力の育成を目指すものである。更に、環境中の病原微生物やアレルギー（アレルギーを惹起する抗原）の侵入に対する人間の防御反応、特に免疫学的防御機構についての理解と応用能力を培うことも目的の一つである。 他方、本授業においては、保健室の場が持つ機能をさらに見直し、救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能、その他を統合させた総合的アプローチの支援モデルを共に構築することも授業の目標点としている。 急速な社会変化の中で、「人間」の尊厳や命の尊さが軽視されるおそれがある。このような「人間」の危機を乗り越えるために新たなパラダイム構築が求められている。本講義においては、教育と健康に着目した教育健康学を再解釈することにより、新たなパラダイム構築を目指す。 本講義は、グローバル・グローバル双方の調査能力が求められていることから実際の調査研究を実践してきた複数の研究者らがオムニバス形式で担当し、臨床教育研究としての高度な「教育健康学特論」の構築を目指すものである。			
8. 学習目標	(1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解する。 (2) 健康を維持するために不可欠な感染防御機能やアレルギー・アナフィラキシー発現などの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことを目指す。 (3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育健康学について理解を深め、児童・生徒と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識の習得を目指す。 (4) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができる。 (5) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができることを目指す。 (6) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できることを目指す。 (7) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることを目指す。			
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	（リーディング・アサイメント）テーマごとに配付された資料を熟読し、要点を報告できるようにしておくことが望ましい。 （ライティング・アサイメント）本講義はオムニバス形式で開講するため、テーマごとに担当教員から、異なる形式のレポート課題の提出を求められる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】講義内容に合わせて各回の担当教員から適宜資料を配布し、文献を紹介する。 【参考書】鈴木 路子、真野 喜洋編著『教育健康学』ぎょうせい、2011。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (1) 人間の健康にとっての環境とは何かを深く探求し、各種環境基準・環境測定法について理解することができたか。 (2) 感染防御機能やアレルギーなどの機序を理解する上で基礎となる免疫現象を理解すること及びその知識を仕事には勿論、日常生活に応用できる能力を培うことができたか。 (3) 先行研究の知見および各受講生の実践知をふまえて、教育人間学について理解を深め、人間と環境との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を習得することができたか。 (4) 本講義で学んだ知見を教育実践に生かす方途を探究する力を身につけることができたか。 (5) 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をできるようになったか。 (6) 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができようになったか。 (7) 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できるようになったか。 ○評定の方法 (1) 対面授業を行った場合の成績評価は、①授業態度（30%）②課題レポート（40%）③研究発表（30%）の成果によって判定する。 (2) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、授業態度を 40%、課題レポート 60%で判定する。 (3) (1) と (2) の両方で授業を実施した場合には、実施した割合にもとづいて両方の評価基準を採用する。 ・院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。			
12. 受講生へのメッセージ	石垣：本講義では、教育健康学のフィルターを通して、養護教諭の持つ専門性の統合的アプローチとも言える「健康相談」について検討する。救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導的機能、さらには教育的機能を同時進行で発揮するという養護教諭独特の関わり方について再理解を図り、その援助モデルを他者に説明できるレベルまで熟知してほしい。 山本：この講義は、皆さんが日常生活で直面する事象を理解する上で役立つ内容で構成されていますから楽しく取り組まれることを希望する。			

	神宮：この講義では皆さんが健康の考え方、捉え方はどうなのかをもう一度じっくりと見直して欲しいので、まず現状の認識について、次に問題点の抽出、そして今後どうすれば、どうすべきかの認識を持って頂けるような楽しい価値ある講義と一緒に作り上げましょう。
13. オフィスアワー	石垣：最初の講義の際に連絡する。 山本：講義の開始前と終了後。 神宮：授業後やメール(n-minakawa@greenblue.co.jp)の場合は事前に知らせて下さい。
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
①．テ ー マ	教育健康学特論の目指すもの オリエンテーション （石垣）
【学習の目標】教育健康学特論の学習目標を理解し、学生自らが追求する学問・研究との関連性を検討することについて見通しを持つ。教育健康学の観点から、学校教育の今日的課題について検討する。 【学習の内容】学校教育を支える基盤とも言える教育健康学への導入として、児童生徒のいのち、健康を多角的な方法論によって支えることの重要性について議論する。またこの議論を通して、学校教育の今日的課題について検討する。 【キーワード】学校教育、命、健康 【学習の課題】現場実践・養護実習・学校ボランティア活動など、各自の実践的体験を踏まえた考察を行う。 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】学校種や地域性による差異にも目を向けながら、多様な関わりの中にある本質を掴む。	
②．テ ー マ	進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。(1) 健康教育の現代的課題（神宮）
【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。 【学習の内容】健康教育の現代的課題として、都市化・人工化とアレルギー反応（アトピー性皮膚炎や喘息）の問題について、各種データをもとに考察を深める。 【キーワード】生育環境、気象条件、寒冷血管反応、局所性耐寒性テスト、アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。	
③．テ ー マ	進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。(2) 温度適応能力の発達（神宮）
【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。 【学習の内容】WHO や各種報道を含めて、我が国や世界各国の現状等について、健康の意義を深める。 【キーワード】生育環境、気象条件、寒冷血管反応、局所性耐寒性テスト、アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。	
④．テ ー マ	進化の過程で身に着けた生物学的・生理学的適応能の発達を学ぶ。(3) 環境の汚染と生体への影響（神宮）
【学習の目標】人間と環境の相互作用は、人間の生存をよりよい状態に導いているのかという問いと向き合いつつ、先行研究及び各種データを読み解き、人間の生存にとっての環境とは何かを深く探求する力を身につけること。 【学習の内容】大気汚染・水質汚濁・地球温暖化による影響と環境測定技法を習得する。 【キーワード】生育環境、気象条件、寒冷血管反応、局所性耐寒性テスト、アレルギー、大気汚染・水質汚濁・地球温暖化と人間 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】人間の生命現象と各自の研究課題との関連性について考えながら受講すること。	
⑤．テ ー マ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学 (1) 教育健康学についての理解（神宮）
【学習の目標】教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。 【学習の内容】各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。 【キーワード】自己管理計画(知識人)の紹介、人間形成 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】 授業内で配付する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】事前配付資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。	
⑥．テ ー マ	人間と環境の関係を見つめ直す知の実践としての教育健康学 (2) 人間と健康との関係の分析法（神宮）
【学習の目標】教育健康学についての理解を深め、人間と健康との関係を分析・検討するための具体的な方法論に関する知識を修得すること。 【学習の内容】各回、事前配布資料の内容をレビューした上で、そのテーマに関するディスカッションを行う。 【キーワード】自己管理計画、人間形成、対人援助、精神作用 【学習の課題】ディスカッションの内容をもとに、各回のテーマに関する自らの意見をレポートにまとめること。 【参考文献】 授業内で配付する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】事前配付資料には外国語文献も含まれるため、熟読した上で授業に臨むこと。	

⑦．テ ー マ	人間の生命の営み：人間の免疫機能（現象）の概要及び環境との関係（山本）
【学習の目標】	免疫現象には感染防御を担う有益な免疫現象とアレルギー・自己免疫疾患などを惹起させる有害な免疫現象があることを理解する。
【学習の内容】	免疫現象は、外部環境から侵入する非自己（抗原）を認識し、それを排除する現象であり、この現象が感染防御を担い、一方ではアレルギーを惹起させる。これらの機序を理解する。
【キーワード】	人間の生命の営み：自己、非自己の科学、抗原、アレルゲン、アレルギー
【学習の課題】	免疫現象の概要を把握する。免疫反応に自然免疫と獲得免疫があること理解する。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	免疫現象は自己と非自己を識別して非自己を排除する現象であることを理解する。
⑧．テ ー マ	人間の生命の営み：有益な免疫現象（感染防御機能など）、自己を守るための基本原理を理解する。（山本）
【学習の目標】	獲得免疫には、補体を活性化して病原（性）微生物を傷害（破壊）したり、病原（性）微生物の感染を阻止する機能があることを理解する。
【学習の内容】	有益な免疫現象の例として、ウイルスの感染防止（体液性免疫）とウイルスが感染した細胞の傷害（細胞性免疫）、さらには補体を活性化させて細菌を傷害したり、毒素を中和（無毒化）する仕組みを理解する。
【キーワード】	自然免疫と獲得免疫、補体、膜傷害複合体（MAC）、中和抗体、ウイルス感染細胞、免疫記憶
【学習の課題】	有益な免疫現象が感染防御機能として働くこと、他方抗原変化が激しいヒト免疫不全ウイルス（HIV：エイズの原因ウイルス）などに対しては抗体がウイルスの感染を阻止できない理由を把握する。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	抗体は単独で細菌やウイルスなどを傷害(破壊)できないことを理解する。抗体の役割を把握すること。
⑨．テ ー マ	人間の生命の営み：有害な免疫現象（アレルギー、自己免疫疾患）を理解する。（山本）
【学習の目標】	獲得免疫にアレルギーなどの生体にとって有害な免疫反応を惹起させる作用があることについて理解する。
【学習の内容】	有害な免疫現象の例として、アレルギーとその発現機序について理解する。さらに、身近に存在するアレルゲン（アレルギーの原因物質）を把握する。
【キーワード】	アレルギー、アレルゲン、IgE 抗体、肥満細胞、ハチ毒、ケミカルメディエーター、食物アレルギー、アナフィラキシー（ショック）とそれへの緊急対応、エピペン
【学習の課題】	アレルギーは、アレルゲンに対して産生された IgE 抗体、肥満細胞及びアレルゲンの 3 者によってケミカルメディエーターを放出させることで発症する仕組みを把握する。アレルギーへの対策。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	有害な免疫現象の結果として発現するアレルギーや自己免疫疾患の発症の仕組みを理解する。
⑩．テ ー マ	人間の生命の営み：ワクチンの応用による感染症の予防効果を理解する。（山本）
【学習の目標】	感染症を人為的に予防する手段として用いられるワクチンについて正しく把握する。
【学習の内容】	ワクチンの成分、効果、種類と特徴、副反応。ワクチン接種によって地球上から根絶された痘瘡（天然痘）を理解する。ワクチンを入手できない国の人々の現状を理解する。
【キーワード】	ワクチン、ワクチンの種類、初めて人類に応用されワクチン（核酸ワクチン）とその効果、副反応、ワクチンを作ることができない病原微生物（HIV など）の存在
【学習の課題】	ワクチンに関して正しい認識を得ること。とくに、ワクチン接種によって程度の差はあるものの副反応が生じることを理解する。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	ワクチンの種類とそれらの特徴を理解する。
⑪．テ ー マ	人間の生命の営み：国内に存在しない危険な感染症（輸入感染症）を把握する。（山本）
【学習の目標】	わが国には致命的な感染症が少ないが、外国には致死率の高い感染症が数多く存在するので、その実態と予防法を把握すること。
【学習の内容】	発症するとほぼ 100%死亡する狂犬病をはじめ、致死率の高いエボラウイルス病（エボラ出血熱と呼ばれていたもの）や中東呼吸器症候群（MERS）、ベクター感染するマラリア・ペスト・ジカ熱などの新興感染症、再興感染症を予防するに十分な理解をする。
【キーワード】	輸入感染症、致死率（致死率）、新興感染症、再興感染症、ベクター感染、感染症法、人獣共通感染症、パンデミック
【学習の課題】	世界中で致死率の高い感染症が発生している現状を理解し、それらの効果的な予防法を講じることができる知識を醸成する。生体に感染したウイルスを殺す薬は無いことを知る。
【参考文献】	配付資料
【学習する上での留意点】	グローバル化した現代社会では、輸入感染症はいつヒトによって国内に持ち込まれるか分からないこと、動物が病原体を保有して国内に持ち込む事例もあることなどを理解する。
⑫．テ ー マ	養護教諭と健康相談（石垣）
【学習の目標】	「健康相談について」法的根拠等について討議する。
【学習の内容】	「養護教諭の行う健康相談」とは何かを討議する。養護教諭独特の関わり方について再理解を図る。
【キーワード】	健康相談のプロセス、救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導的機能、教育的機能
【学習の課題】	「健康相談の今」の課題について討議する。
【参考文献】	『養護教諭の行う健康相談』大谷尚子・森田光子他 東山書房 （各自テキスト）
【学習する上での留意点】	子どもの健康課題の背景をおさえていく。
⑬．テ ー マ	健康相談におけるカウンセリングの位置付け（石垣）
【学習の目標】	健康相談における「聞く技術の意義について」検討し、養護教諭としての発揮のあり方を検討する。
【学習の内容】	短時間・随時の支援から構成されるカウンセリングプロセスの理解。
【キーワード】	受容、共感、自己一致、傾聴、カウンセリング技法、来談者中心療法 教職員、SC との役割分担
【学習の課題】	行動変容（時期）、プロセスの理解。（次週予告；Case 事前に配布）
【参考文献】	マークヘンダーソン、ローレンスティアニー、ジェラルドスメタナ編/山内豊明監訳『聞く技術』第 2 版、日経 PP、2013
【学習する上での留意点】	演習を通し実体験をしていく。

⑭ . テ ー マ	健康相談における見立てと支援方法・事例研究（石垣）
【学習の目標】 事例検討を通じて、健康相談のプロセスにおける養護教諭の役割や各機能の発揮のあり方について検討する。 【学習の内容】 子どもが抱えている問題や背景の判断根拠を見極める。 【キーワード】 アセスメント、不定愁訴、頻回来室 【学習の課題】 健康相談における EBM について学ぶ。（次週資料配付） 【参考文献】 大谷尚子 森田光子『養護教諭の行う健康相談』東山書房、2012 【学習する上での留意点】 事例から子どもの支援手立てを探っていく。	
⑮ . テ ー マ	まとめと振り返り（石垣）
【学習の目標】 本講義・演習のまとめと振り返りを行う。 【学習の内容】 前半で本講義・演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点から振り返りを行う。 【キーワード】 企画力、論理構成・展開力、コミュニケーション力 【学習の課題】 本講義・演習の成果を報告すること。 【参考文献】 授業内で配付する「参考文献一覧」参照 【学習する上での留意点】 資料等を作成した上で、指定された時間内に自らの研究成果を報告すること。	